

《 アンケート結果からの考察 》

○全体的に、昨年度に比べ、多くの項目においてポイントが上回り、下がった項目も数値的にわずかであり、生活と学習等、児童・保護者・教職員ともに充実した生活を送ることができたことがうかがえます。

特に、「⑬ 学校が楽しい」が3.70前後と非常に高い評価となっています。「学校が楽しい」と感じる理由の一つに「学習がわかる」があります。今年度は、言語活動に力を入れ、朝学習を中心に日常的に学習の定着を図ってきました。「言葉の木」や「視写」をすることで語彙を増やしたり文章の構成を把握したりできるよう取り組みました。「スピーチ・ペアトーク」を行い、日常的に「話す・聞く」と力を高めてきました。その結果、「語彙を適切に使う」「短文を構成する力」「集中力」「書き写すスピード」などが高まってきました。また、発表の場面では、自分の思いを整理し、自信をもって話すことができるようになってきました。このような取り組みが、子供たちの自信につながり、「学習がわかる＝学校が楽しい」につながったと考えます。今後も、「わかる授業」を心がけ、学校が楽しくなるような取り組みを行っていきます。

○児童評価では、「⑧GIGAタブの活用」が3.75と非常に高く結果となりました。学習の中で使用する頻度も増え、学習の振り返り、ドリルパーク、調べ学習などで活用。また、道徳などでは自分の意見を発表する場、友達とやったことを共有する場としても活用しています。操作が慣れている子は友達に教える場面も見られます。週に一度は、朝学習で、ギガタブの扱い方、ソフトの使い方も学習しています。繰り返し使うことで、自信をもって操作できる子供たちが増えてきました。これからは、より学習に必要な道具となり、個に合わせた学習を進めるうえでも大事なものとなってきます。個々の興味・関心にあった学習がさらに進められるよう取り組んでいきます。

○児童・保護者・教職員ともに「⑤家で読書に取り組む」は、他に比べやや低めの値となりました。子供たちが本に親しめるよう、先生方による「おすすめの本の紹介」や「シャッフル読み聞かせ」、季節にあわせた読書イベント、国語の学習に合わせた各学年の本の紹介を行ってきました。しかし、ポイントが低い状況です。その要因の一つにICT化が考えられます。スマホやタブレットの中で、書籍を読むことができたり、調べ物も辞書や図鑑でなく、ICT機器に頼ったりすることも増えていきます。本を読むことは心を豊かにし、思考力や集中力、生きていくために必要な力が身につく効果があります。学校では、図書室の本を整理し、子供の興味・関心に応じた本を増やしたり、今後も「みどり文庫」さんや「みのりの丘」さんの協力を得て、読み聞かせをお願いしたり、多くの本と出合えるような取り組みを行っていきます。

○「⑰教育環境（安全・美化）の整備」は3.40以上と高い評価がついていますが、今年創立50周年を迎え、各箇所に老朽化がみられ、修繕を必要としています。できる限り素早く対処し、子供の安全を確保するよう努めています。内容によっては教育委員会に連絡をし、早急な対応をお願いしています。今後も点検を継続し、迅速に対処してまいります。

※自由記述欄には学校へのご意見やご提案、教職員への激励の言葉等をいただきました。貴重なご意見として受け止め、今後の学校生活に活かしていきます。